

【第96回対策本部会議】8月18日

知事／豪雨災害のさなか、関係者の皆さんお疲れさま。また、被災された皆様には、心からお見舞いを申し上げます。

これまで、11回の災害対策本部会議と24時間体制で命を守るための対応をしてきた。犠牲者が出ず安堵している。関係者の皆様に感謝したい。

もう1つの災害とも言える新型コロナウイルス。陽性者数は、昨日の過去最高121人を上回り、本日は182人。連日、過去最多を更新する厳しい状況になっている。デルタ株の感染のスピードと感染力の強さは、今までの想像を超えている。昨日は、九州各県も過去最高を更新した。

帰省した人が、友人との会合に参加して感染が広がり、さらにお盆の親戚の集まりへと拡大している事例がある。従来株より感染する率が高く、大きく広がっているようだ。

本日の陽性者の9割以上が40代以下。若い人が、家族単位で感染しているのが、今回の特徴。限られた医療資源、保健所資源、職員資源の中で、どう対応するのかを検討した。

直近1週間の人口10万人あたりの感染者数

福岡県と共に、九州各県も上昇していて、先が見えないのが実情。宮崎県や鹿児島県は、早から独自の緊急事態宣言や時短要請をしていた。それでも、九州が増加しているのは、お盆、夏休みに帰省したことが原因ではないかと考える。

県内保健所管内ごとの新規感染者数の推移（人口10万人当たり7日間移動平均線）

唐津管内が急増している。合併前の旧唐津市だけを計算すると、赤い丸の位置になる。この1週間は、東京の感染者数に匹敵する。昨日、峰唐津市長が唐津市コロナ緊急事態宣言を出した。旧唐津市内の鎮静化を願っている。

現在、病床使用率が53.7%。ホテルが74.1%。ホテルの使用率が高いのは、若い人が多いことと病院からの下り搬送ができていないから。

本県は、一人一人を丹念に調査・検査して、幅広く「念のため検査」をすることで感染拡大を防いできた。それが功を奏し、重症化を防ぎ、現在も重症者はいない。死亡率は、全国の中でも低い。

「プロジェクトM」が機能しているのは、「念のため検査」で感染を封じ込めることと、的確な初期医療を可能にしている仕組みがあること。この初期医療体制の確保、病床の確保が重要で、これができなければ、重症者が増え、命を落とす危険性が出てくる。

しかし、感染者がここまで増えると、保健所が聞き取り調査やPCR検査に追われ、初期医療が滞ってしまう。保健所の仕事を初期医療の診断に重点を置けるようにするため、幅広い「念のため検査」はできなくなる。ただし、学校等は状況に応じて従来通りの検査対応を保つ。医療

資源の確保のため、一般医療提供体制の維持のため、ご理解いただきたい。

ホテルの使用率が 70%を超え、満室の状況に近い。ホテルは、退所の際にクリーニング作業や空間を作るために空き部屋も作っているため、100%の使用率まで使えるわけではない。そこで、本日から、自宅療養を導入する。軽症の家族や無症状の家族は、食糧の提供や医療のチェック体制を維持しながら、自宅療養型を作っていく。医療環境を守ることと「プロジェクト M」を維持するため、専門家と相談しながらこの体制を取ることを決めた。

佐賀県の方針「医療環境を守るための非常警戒措置」

コロナから命を守るとともに、通常診療、救急医療が受けられる状況を維持していく。

① プロジェクトM「自宅療養の導入」

- ・症状に応じた入院・入所の調整と、きめ細かい健康観察により、患者の早期治療につなげ、医療環境を守り抜く。
- ・低リスクの陽性者を対象に実施する。

② 飲食店の営業時間の短縮

飲食店が原因だとは思っていないが、少しでも可能性をなくすため、全県で実施する。

- ・旧唐津市は 20 時まで、その他全県域は 21 時まで。期間は、20 日から 31 日。酒類の提供は可能。時短要請に応じた飲食店には、協力金を支払い、そのほかの支援についても今後検討する。

医療環境を守るための非常警戒措置は、過去 2 回発出した。これまで、皆様のご協力、ご支援のおかげで克服できた。今回もチーム佐賀・オール佐賀で乗り切りたい。

プロジェクトM「自宅療養の導入」

新型コロナウイルス対応医療提供体制強化本部事務局長／これまでは、中等症、重症の方は病院、軽症の方は病院又はホテル療養、無症状の方はホテル療養としていた。ホテル療養者の状態が悪化すれば病院、回復すれば病院からホテルに移るという回転で、重症化、死亡の数を抑えることができた。感染者の急増により、今後、この回転がうまくいかないことも予想されるため、自宅療養を導入する。

今後の目安は、

- ・病院：重症者や肺炎症状を起こしている中等症の場合
- ・ホテル：1 人暮らしの人、基礎疾患のある人、45 歳以上の人
- ・自宅療養：軽症または無症状で、世帯に複数の陽性者がいる場合

状態により重症化する可能性がある人は、ホテル療養をしてもらう。必要に応じて、自宅から病院、病院からホテルへと、回転をうまくいくように維持していく。

自宅療養者には、健康観察のチェック、食糧や生活用品、医薬品が手元に届くようにする。

このような形をとることで、入院医療が必要な人に早期に治療ができ、早期の回復につながる。お一人お一人の健康と命を守り、コロナ医療と通常医療の両立を図っていく。

医療統括監／抗体カクテル療法について説明する。

中外製薬の「ロナプリーブ」は、早期治療と病床負担の軽減につながるとメディアで取り上げられている。日本では、7月19日に特例承認を受け、本県では8月13日から使い始めた。

「ロナプリーブ」には、カシリビマブとイムデビマブという新型コロナウイルスの中和抗体2種類が入っている。重症化を7割防ぐことができると言われている。点滴なので、病院で主に使われていた。しかし、8月13日からホテル療養でも使えるようになった。

治療対象は、「重症化リスクが高い軽症」「中等症Ⅰの患者」で、発症7日以内、酸素投与が不要の人、50歳以上、基礎疾患がある人に使う。ただし、妊婦には使えない。

適切に使うと、軽症の人の治療期間が短くなり、重症化しても最悪のケースは免れる。入手できる量が限定的だが、病床の負荷の軽減に期待できる。

13日に5事例で治療を開始したが、効果はまだ確認できていない。

坂本副知事／国から配分される量が少ない。発症初期の段階で使うべきなのに、発症数に比べて数が違いすぎる。

医療統括監／全国で7万という数量が問題だ。

知事／専門医から聞いた話では、個別に「誰々分で」と東京に発注し、1件ごとに送ってくるそうだ。ストックがあって、順次投与できるものではないと聞いた。

医療統括監／チェック項目があり、それに該当した人に対して発送される。病院にストックできるものではない。

知事／総理は、薬の量はあると発言した。九州のような遠隔地は、まとめてどこかで保管してもらいたい。

医療統括監／青木先生がおっしゃるには、学会からも要望を出しているとのこと。

新型コロナウイルス対応医療提供体制強化本部事務局長／自宅療養を開始するにあたり、自宅療養者の健康観察をする看護師を緊急募集する。電話での健康観察や相談対応をお願いしたい。医務課までご連絡を。

また、自宅療養中の軽症・無症状の療養者の状態が変わったときに往診できる医師や訪問看護師も併せて募集する。県内のクリニックや訪問看護ステーションからの協力も得ているが、

さらに募集したい。

坂本副知事／8月の感染状況は、「福岡県に近いから」ということでは説明がつかない状況になっている。帰省が大きな要因になっているのではないか。

健康福祉部長／帰省した人が、その日のうちに友人と会って会食をする事例が多い。そこから、県内全域に広がっているように思う。全体の半数以上が、そのような事例だと感じている。

坂本副知事／都道府県ごとの対応では追いつかない段階になっている。国が、大きな対策を打ち出してほしい。

政策部長／先ほどの営業時間の短縮について、補足説明する。

- ・期 間：8月20日(金)から31日(火)まで
- ・営業時間：旧唐津市が、17時から20時まで
その他の県全域は、17時から21時まで。
- ・対 象：飲食店、喫茶店、遊興施設のうち食品衛生法上の飲食店営業許可を受けている店。宅配やテイクアウトのみの営業は対象外。
- ・協 力 金：1店舗当たり、売上高に応じて30万円から90万円
全期間、時短要請に応じた店に支給する。

文化・スポーツ交流局長／現在の新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、佐賀支え愛宿泊キャンペーンの新規予約の受付を8月20日(金)から停止する。

教育長／8月に入り、児童生徒の陽性者が急増している。学校によって、早いところでは8月23日から2学期の始業式を迎える。このような感染状況の中で学校を再開するにあたり、感染症対策を強化する。

- ・「健康観察カード」の導入
始業式の5日前から、毎朝の検温と健康観察をカードに記入し登校する。カードを提出することで、健康観察が見える化する。感染拡大期間中は、継続して取り組む。
- ・オンライン授業の事前準備
いつ学級閉鎖や学年閉鎖になっても、オンライン授業で対応できるようにしておく。

また、部活動は活動を自粛する。県内の学校・チームとの交流、県内大会への参加、県内での宿泊を伴う活動は、非常警戒措置の期間中は自粛する。

これらは、本日付で全県立学校に通知するとともに、市町教育委員会、私学にも文書を発出する。

知事／改めて、医師、看護師、訪問看護師のみなさんのご協力をお願いする。

デルタ株の感染力、感染スピードには脅威を感じる。毎日検温し、少しでも熱があると感じたら、人とは会わずに自宅にいるようにしてほしい。少しの兆候も見逃さないこと。

症状のある人が、ある会合に出席した場合、従来株ならその中で感染するのは1人か2人だったが、デルタ株はほとんどの人が感染してしまう。都市部の感染者数は、症状の出ている人だけで、症状の出していない陽性者が多くいると思われる。だからこそ、自制した行動をとってほしい。

改めて、この厳しい状況でコロナに対応する医療従事者の皆さん、介護、福祉、保育所、教育現場の皆さん、保健所、ワクチン現場、職員の皆さんに心から感謝申し上げます。佐賀県は慈しみの県。誹謗中傷がないようお願いする。

現在、65歳未満のワクチン接種率は17%。非常に少ないが、これでも全国3位。接種が進むよう努力する。接種できない人への差別がないようお願いする。

厳しい3度目の宣言、措置となった。チーム佐賀・オール佐賀で乗り越えたい。